

***3月末で退職したM君が残したものーその2ー (珍しいEMI製光電子増倍管)**

珍しい光電子増倍管と言ったのは提供してくれたこの3月に退職したM君である。M君からは、アーカイブ室新聞第585号(2012年4月26日)に「3月末で退職したM君が残したものーその1ー」という記事を書いた。今回の記事はその第2弾であるが、実は、アーカイブ室新聞第589号(2012年5月2日)に「8チャンネル分光偏光測光装置のフォトマルユニット2個収蔵」という記事を書いているが、これもM君から提供されたものであるから、本来なら「3月末で退職したM君が残したものーその3ー」になる。

筆者には、この光電子増倍管のどこが珍しいかすぐには分からなかった。写真1が提供された光電子増倍管である。ごく普通の光電子増倍管に見えた。が、

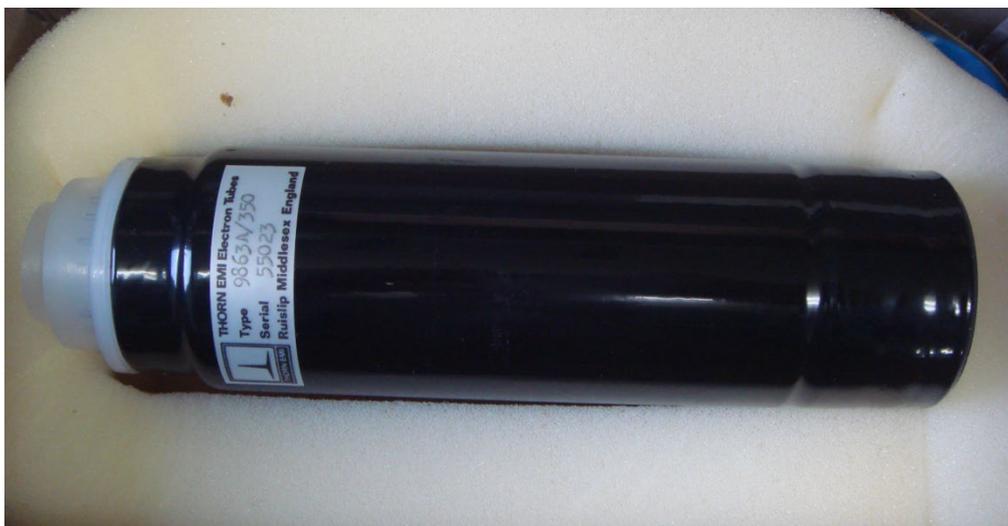


写真1 珍しいと言われた光電子増倍管

確かに珍しいと言えば珍しい。通常、光電子増倍管の上面一杯が光電面になっている場



写真2 凸面になった光電面

合が多いがこのように、中心の小さな場所が光電面の場合もある。珍しい特徴が分かった。

光電面が凸面になっているのである(写真2)。 写真2ではよくわからないので、光電面を拡大すると、そこに写った像は確かに凸面に写った像である(写真3)。



写真3 光電面が凸面になっている

写真3で見るように、光電面には写真を撮影している筆者、カメラが凸面に写っていることが分かる。筆者は光電子増倍管を使った世代であるが、確かに光電面が凸面の光電子増倍管は見たことがない。確かに珍しい。

本体のラベルには、写真4のように書かれている。

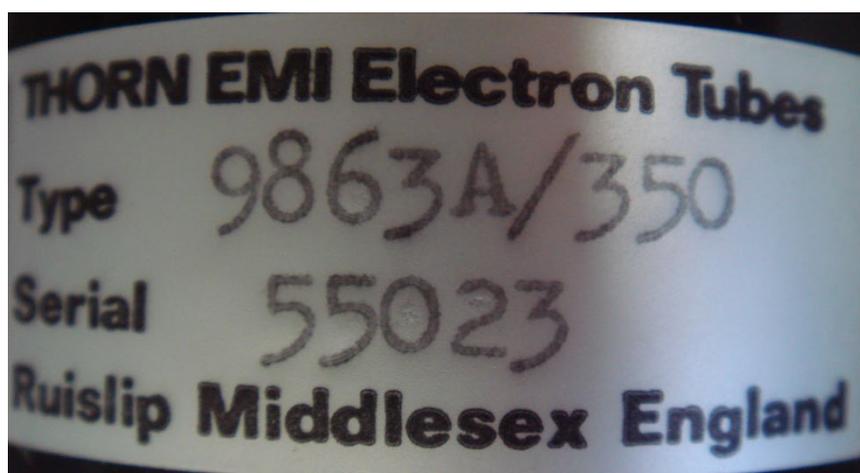


写真4 本体に貼られたラベル

M君が提供してくれた光電子増倍管はイギリスのEMI製である。光電子増倍管に添えられたデータシートが写真4である。クレームはこのデータシートを添えろと書いてある。

THORN EMI **IMPORTANT**
 This test ticket must be returned with tube if making a guarantee claim.

TYPE **9863A/350**

SERIAL **55023**

CATHODE **153** $\mu\text{A/lm}$

A/lm	V_{k-a}	I_a (dark) nA
20		
50		
200		
500	1890	2.3
2000		
10000	2000	

C.B. 7.2	C.R. 62
88A	87 3.4
^{60}Co	^{57}Co %

D. COUNT: **520** p.s. AT **1620V**

ET-4 **8354** Despatch

Ref.No.10643E

写真4 データシート

確かに珍しい光電子増倍管としよう。どのような目的で購入したかは聞きそこなった。読者からの情報を待ちたい。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp